

### レアメタル問題の本質

物材機構  
特命研究員 原田幸明氏講演

レアメタル資源再生技術研究会は4日、オープン合同分科会を開催し、その中で「本音で語るレアメタル(レアアース)問題をテーマに、パネルディスカッションが行われた。ディスカッション前には、物質材料研究機構の原田幸明特命研究員がレアメタル問題の本質についてビデオレターで講演した。その概要を紹介する。

原田氏はレアメタルに関する諸問題について、いまだ解決に至っていないと断言する。尖閣問題を発端とした「チャイナショック」のような2010年型の一時的な危機は終わったが、「将来、次の危機が来る。その時にどう対応するかが問われている」と強調する。

また、鉄や銅、アルミニウムといったコモンメタルとレアメタルの違いについては、コモンメタルは市場規模が大きく、レアメタルは市場規模が小さく、相場変動も大きいこととの認識を語った。

また、株式、債券市場と比較した場合、資源市場の規模は「小指の先ほどもない」と語った。比較してみると、世界の株式市場は7200兆円、債権市場は5500兆円であるのに対し、鉄鉱石の年間売物市場で4兆5000億円、これまで産出した金の総額でも450兆円にしかならない。

また、鉄や銅、アルミニウムといったコモンメタルとレアメタルの違いについては、コモンメタルは市場規模が大きく、レアメタルは市場規模が小さく、相場変動も大きいこととの認識を語った。

熱心に議論が交わされた



資源制約はメタルごとに違っていることと指摘した。供給危機の問題に関して、金属ごとに異なる見解を示した。銅や亜鉛などのコモンメタルは「量的要素」を挙げる。現有技術で掘り出せる絶対量に限界があるからだ。アルミ、チタン、マグネシウムなどは、電力価格等に依存する製造技術的要素が課題となる。

また、レアメタルに関する議論は、資源市場の規模は「小指の先ほどもない」と語った。比較してみると、世界の株式市場は7200兆円、債権市場は5500兆円であるのに対し、鉄鉱石の年間売物市場で4兆5000億円、これまで産出した金の総額でも450兆円にしかならない。

### 下の源 リサイクル重要 供給体制としての構築を

命線は自動車ではなく、工業素材になっていく。直近は円安で車の輸出も増加しているが、それでも首位をキープしている。工業素材の多くはレアメタルが使用されており、よ

また、中間処理業の重要性を特に強調。日本の法律上、リサイクルという業は存在しないこと、購入の検査は値段次第となるとの声も聞かれた。

レアメタル資源再生技術研究会  
オープン合同分科会

【各務原】